

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	江尻桂子・清水由紀	所属	茨城キリスト教大学（江尻） 早稲田大学（清水）
研究会等名称	発達心理学基礎研究検討会（通称:土曜研） 研究会番号：23002		
成果概要	<p><b>1) 参加人数</b>（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）  <b>213名</b>（対面参加者：46名 ウェビナー参加者 167名）  （会員：約17名 非会員：約196名）  （*認定心理士については参加登録時に回答を得ていないため不明）</p> <p><b>2) 集会等の目的・成果等</b></p> <p>① <b>目的：</b>  本研究会は発達心理学研究の中でも、特に実証的研究、データに基づく実験・観察・調査研究に重点をおくものである。年に1～2回の頻度で研究会を開催しており、以下のWebサイトに、過去の成果（開催概要）および今後の開催予定を掲示している。<a href="http://doyouken.jimdo.com/">http://doyouken.jimdo.com/</a></p> <p>② <b>実施内容と成果：</b>  <b>&lt;第34回土曜研定例研究会の実施&gt;：2023年7月1日13:00-15:00</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>概要：</b>  発表者1名を迎え、最新の研究成果をご紹介いただくとともに、参加者を交えての討論を行った。ハイフレックス方式での開催（Zoom ウェビナー&amp;早稲田大学にて対面集会）であったため、全国各地より多くの参加者があった。また、大学関係者（学生や教育・研究者）だけでなく臨床現場の実践家による参加もあった。以上のことからオンライン開催による利点が生かされたと言える。また、昨年引き続き、対面での開催を実施できたことから、参加者同士の直接の交流も行えた。以上により、土曜研の目的の一つ（所属機関を超えての研究者の交流・ネットワークの構築）を果たすことができた。</li> <li>・ <b>発表者：明地洋典先生</b>（京都大学）：  「ヒトのコミュニケーションはなぜこのような様式なのか」というタイトルのもと、最新の研究成果をもとに、ご発表頂いた。  具体的には、ヒト対ヒトの情報伝達は過度に文脈に依存しているが、なぜこのような様式なのかを、特に機能、適応的側面に焦点を当てつつ、成人対象の研究や自閉スペクトラム児者を対象とした研究をふまえて、議論いただいた。以上の話題提供をふまえ、対面参加者およびオンライン参加者を交えた質疑応答が行われた。</li> </ul> <p><b>3) 将来の計画：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでと同様、年に1～2回の定例研究会を開催する。</li> <li>・ ハイフレックス方式（対面+ウェビナー）での開催は、昨年に続いて2度目になるが、対面のみでの開催、オンラインのみでの開催に比べて、運営者側で配慮すべきことが非常に多く（特にウェビナー参加者への対応）、課題は残る。今後も様々に工夫を重ねながら、そして試行錯誤しながら、より良い形で研究会を開催していきたい。</li> <li>・ 研究会の将来目標としては、次の2点である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 異なる研究機関に所属する研究者同士の交流の増進を図るとともに、研究者間・研究機関間のネットワーク形成および学術情報の共有の場を提供する。</li> <li>② 研究会活動を通して、日本の発達心理学研究における若手研究者の支援と交流の活性化を目指す。</li> </ol> </li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>		

2023年7月5日

日本心理学会研究会 2023年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 発達心理学基礎研究検討会  
〔通称：土曜研〕

研究会番号 研23002

助成金額 ¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2022年7月1日	講師旅費： 明地洋典先生(京都大学) (早稲田大学の会場にて対面でご講演) 京都市役所駅—烏丸御池駅—京都駅—(新幹線のぞみ)—東京駅—大手町駅—早稲田駅 (交通費片道14,610円)	¥29,220
	資料コピー代	¥550
	水・紙コップ (講師用)	¥276
	支出合計	¥30,046